

NEWS LETTER

KYU-UEDAKEJUTAKU

INFORMATION

八尾市指定文化財 安中新田会所跡
旧植田家住宅だより

特集

開館一周年記念展示

植田家を語るものたちⅡ

～幕末明治の名品～

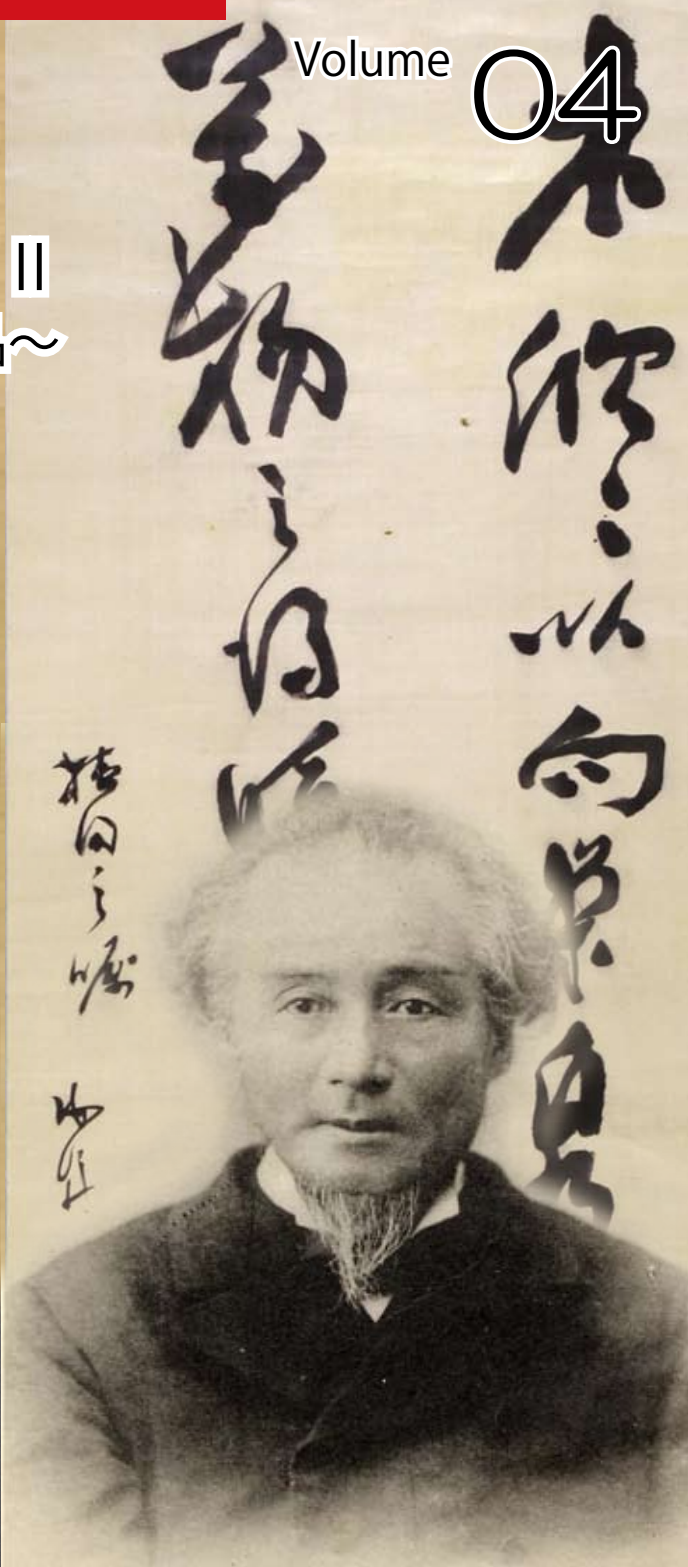
Volume

04

おひなさまの歴史

うえまっづを歩く

畳のある住まい

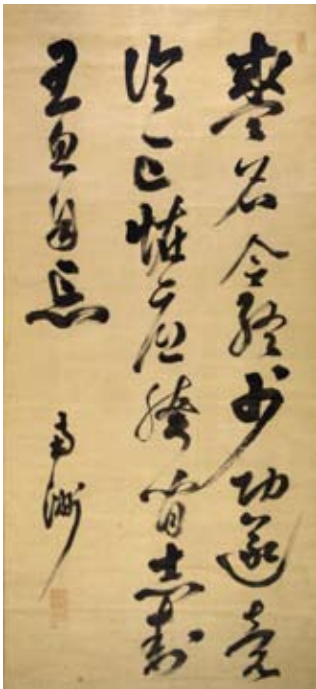




(表紙写真・右)

二行書 勝 海舟 筆

勝海舟は幕末から明治にかけて活躍した政治家。大政奉還の後は旧幕府側の全権を委任され、西郷隆盛と会談の場を持ち、早期停戦に尽力した。維新後は様々な職務に就き、旧幕臣の就職の世話や資金援助、生活保護などを行ない、幕府崩壊による混乱を最小限に抑え、反乱を防ぐ努力を続けた。明治32年(1899)死去。



(表紙写真・左)

漢詩 西郷南洲(隆盛) 筆

西郷隆盛は幕末から明治維新期に活躍した武士・軍人・政治家。江戸城開城の際には新政府側の代表として勝海舟との交渉に臨んだ。維新後は新政府に参加したが、大久保利通らと対立。鹿児島に戻り、私学校での教育に専念したが、この私学校生徒の暴動から西南戦争が起こり、指導者となるが敗れて自刃した。

*勝海舟・西郷隆盛の肖像は国立国会図書館ウェブサイト
電子展示会「近代日本の肖像」から転載しました。

4

特集 開館 1 周年記念展示

「植田家を語るものたちⅡ」
～幕末・明治の名品～

6

おひなさまの歴史

安村俊史氏（柏原市立歴史資料館学芸員） 講座

7

うえまっぷを歩く

10

出前授業・ちょっと昔の暮らし「畳のある住まい」

12

なにわの伝統野菜栽培日記

13

Kyuca（キューカ）はじめました

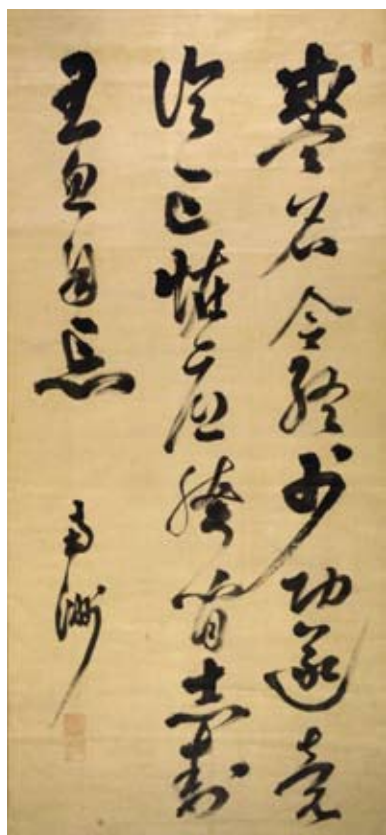
14

開館一周年によせて

15

今後の予定

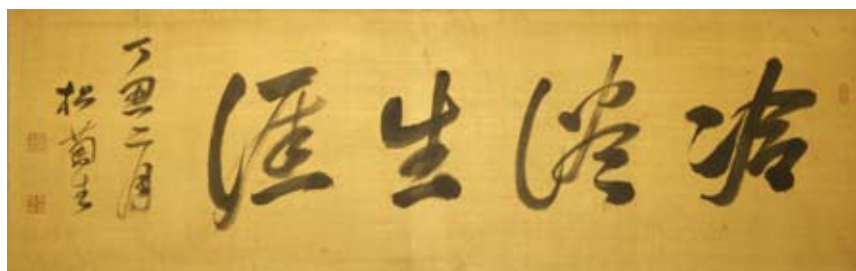
時代を超えてよみがえる維新志士の横顔 新時代を切り拓いた英雄たちを垣間見る特別展



西郷隆盛筆 漢詩

植田家を語る ものたちⅡ

～幕末・明治の名品～



木戸孝允筆 扁額

ここ、安中新田会所跡旧植田家住宅は開館以来、およそ八〇〇〇名の方にご来館いただいています。一般の方がたに加え、昨年の夏休みごろからは放課後や土曜日、日曜日になると近くの子ども達が大勢遊びに来るようになり（中学生以下は入館無料）、地域社会の一員として親しまれてくると同時に、地域教育や地域の文化遺産の担い手としての責務を果たし始めてきたのではないかという手ごたえを感じています。

そんなみなさまのあたたかいご声援に支えられ、当館は五月六日に無事、開館一周年を迎えます。これを記念して展示室では四月二日から五月三一日にかけて、開館一周年記念展示「植田家を語るものたちⅡ―幕末・明治の名品―」を開催しています。

今回は、植田家に伝わった様々な資料の中から、幕末・明治期の書画類や書籍などを中心に展示されています。これらの展示品の中には木戸孝允（桂小五郎）や西郷南洲（隆盛）、勝海舟など、幕末・明治維新期を代表するスターたちの筆跡も含まれています。彼らの活躍の様子は、今年のNHK大河ドラマ「龍馬伝」などでも伝えられています。これらの作品からは、日本の夜明けをめざしてひた走った英雄たちの素顔が垣間見えるように思えてなりません。

日本という国が近代化に向けて大きく舵を切った時代。それは植田家が四代・植田市太郎から五代・植田一郎にかけてもっとも繁栄した時代でもありました。特に一郎は、その政治的手腕や教育者としての側面が評価されているだけでなく、文化的な素養も高かった人物で、為書（依頼主の名や、どういう理由で揮毫されたかなどが書かれた部分）のある作品がこのされていることから、明治期の文人や画家、政治家との交流があったことがわかります。現在に至るまで続く地域文化の中心地としての植田家は、この時代に始まったといっても過言ではないでしょう。

植田のあたりには旧植田家住宅以外にも、たくさんのおみどころがあり「うえまつぶ」（七〜九ページに関連記事）などに紹介されてい

ます。このすがすがしい新緑の季節にぜひ、地元に残された貴重な文化遺産を“再発見”してみたいかがでしょうか。



矢野橋村筆 梅山水



田能村直入筆 萬歳亀



おひなさんの歴史

地域でちがう飾りかた あなたの家は関西風？関東風？



講演中の安村氏

三月六日に開催された講座は柏原市立歴史資料館から学芸員の安村俊史さんをお招きして「おひなさんの歴史」についてお話ししていただきました。

そもそもひな祭りは、息を吹きかけて罪や穢れ、病気を移した形代を水に流す「上巳の祓」（じようしのはらえ）が行事化したものが源流ではないかと言われているそうです。平安時代に、木や紙で作った「雛（ひいな）」を使っ

た遊びが行なわれるようになるのですが、これが室町時代ごろに「上巳の祓」と一体化したものがひな祭りの起源ではないかということでした。

江戸時代の初期になると、立雛が飾られるようになり、江戸時代の後期には現在見られるような、豪華な七段飾り（最近は減っているようですが）が登場したようです。また、おひなさんになくてもならないものに雛道具があります。これも江戸時代の半ばごろから種類が増え、精巧なものが作られるようになっていきます。これらの道具は仲見世などで売られていたということです。

さてここで、家に雛人形がある人はちよつと思ひ出してみてほしいのですが、あなたの家の雛飾り、お雛様はお内裏様の右にいらつしやいますか？それとも左にいらつしやいますか？

実はこれ、地域によって違うんです。向かって右、つまりお内裏様の左にお雛様がいるあなたは「関東風」。その

逆でお内裏様の右にお雛様がいるあなたは関西風の飾り方になります。

かつて、日本では男性が女性の左にくるのが普通の立ち位置でした。それが明治維新の後、皇室が西洋式の立ち位置にあらためたため、関東を中心に、お雛様の立ち位置（座り位置？）もこれにならうことになったのです。ただし、現在では関西でも関東風の飾り方が主流になってきているそうです。

ではなぜ西洋では左に女性が来るのかというと、かつて騎士が右手に剣を持ち、左手で女性を守ったからだと言われているそうです。

男性が「草食化」していると言われる現代日本。再び女性が右に立つようになる日も遠くないのかもしれませんがね・・・。

なお、現在旧植田家には「おひなさん」が一体もいらつしやいません。もし近隣の方で寄贈いただける方がいらつしやいましたら、ぜひ安中新田会所跡旧植田家住宅（電話・〇七二・九九二・五三一／Eメール・info@kyu-uedakejutaku.jp）までご連絡ください。

「うえまつぶ」を歩く

「うえまつぶ vol.01」は、二〇〇九年八月に「植松のまちづくりを考える会」がN

PO法人HICALIの協力を得て作成した、植松のまちやまちの歴史、今のまちのまどころを紹介するマップで、植松のまちを知ってもらい、旧植田家住宅や植松を訪れた人に、まちを歩いて楽しんでいただけたらというこで作成されました。

その「うえまつぶ」をもって、植松のまちを歩くイベント「うえまつぶを歩く」を三月二〇日（土）に開催しました。天候に恵まれ、まち歩きにはとてもよい暖かい日でした。当日は朝九時にレトロな駅舎であるJR八尾駅南改札前に一六名の参加者が集合しました。

西に向けて出発し、JR八尾駅前の商店街を歩きました。地域の昔のことをよく知っている方の参加があり、ちよつと昔の植松のまちや商店街が賑やかだったころのようすを知



ることができました。この日、龍華コミュニティセンターでは、コミセン祭りが行われていましたので、途中立ち寄り、書道や陶芸の作品などを鑑賞しました。

その後、旧奈良街道沿いを東に歩き、植松の史跡など歴史遺産を中心に見て歩きました。さらに東に向かい、「うえまつぶ」には紹介されていない映画館や日の出市場（公設市場）、銭湯などがあつた場所を、ありし日の様子を想像しながら見て歩きました。

最後に、旧植田家住宅で開催されていた企画展「装・よそおう」（現在は終了）を見学しました。ここでは学芸員の宮元さんの詳しい解説を聞き、参加者の方々は、昔の化粧などの話に感心されていました。この日はここで十二時過ぎに解散となりました。

現在、「植松のまちづくりを考える会」では、「うえまつぶ」の第二弾となる、すこし前のまちのようすを次の世代に伝えるためのマップを作成中です。どのようなマップが出来上がるか楽しみです。

ふれあいとぬくもりの商店街

第7回ふれあい昔遊び
5月23日（日）

午後から、場所：渋川神社（雨天中止）

主催：JR八尾駅前商業協同組合



⑧農地と新住宅、右の木々は淡川神社



⑨倉と土の道が残る



⑤制札場跡



⑪旧植松小学校跡(右は常夜灯)
 明治7年8月第73番小学校と改称のとき、
 植田市太郎・林敬治郎・田中晋治など菅
 舎に学んだ村内の有力層により土地、備品、
 教材などが寄贈された。
 ・明治8年4月植松小学校となる。
 ・常夜灯は現在、旧植田家住宅庭に移設。



⑩長屋門、焼き杉の板塀



⑪庭先の野鳥
 冬の庭先、残った果樹に集まって
 くるメジロや野鳥。



⑫大門地蔵
 称念寺門前の地蔵堂にある。
 龍華寺(りゅうげじ)の大門の所にまつられて
 いたものがいつ頃か、ここに移されたため
 大門地蔵と呼ばれている。



①淡川神社

天忍穗耳命・饒速日命(あめのおしほみのみことにぎばやひのみこと)を祀る。
 延喜式内社の神社、老樹が多い。もとは、旧大和川(長瀬川)を
 隔てて東岸あたりにあったが、天文2(1533)年5月の洪水で流
 失、そののち、元龜3(1572)年頃、今の地に移建されたとされる。



②淡川神社の大クスノキ

神社の境内東北隅にある。幹周り7m
 樹齢千年の大クスノキ。
 昭和24(1949)年5月大阪府顕彰天然記念物に指定。
 昭和61(1986)年4月八尾市保全樹木に指定。



③旧植田家住宅(安中新田会所跡)
 大和川付け替えのための安中新田会所「会所屋敷」の地を継承
 したものとみられる。建造物としては、主屋の他に道路に面し周囲を
 区切る表門とその右脇の土蔵と奥の主屋と接続する土蔵、控舎
 (番部屋)がある。
 「安中新田会所」は、植田家が代々新田の支配人を務めていたこ
 とから、建物は幾度かの改修を経ているものの、文政五(1822)
 年の家相図にある梁や柱が建物で確認されており、会所屋敷地と
 建物が現存している貴重な史跡である。
 ・国登録(平成18(2006)年3月27日)・市指定(平成18年6月19日)



④安中地蔵



鯉地蔵⑥

植松周辺マップ

大阪から電車で約10分。JR八尾駅の南側、植松周辺は旧大和川（長瀬川）の自然堤防に沿った澁川神社を中心に、今でも旧村の町割りが残り、道幅も狭く、古い民家やお寺、道標などが数多く見られ、時間が逆戻りしたような風景に出会うまちです。ぶらりと地域の風土や歴史にふれながら、このまちだけのお宝を見つけてみませんか？



⑬ 奈良街道

6世紀頃、八尾は大和川の舟運や、磯齒津路（しはつみち）とよばれた陸路で、難波や住吉津（すみのえ）と大和を結ぶ重要な地域となっていた。
磯齒津路は「日本書紀」の雄略天皇の記事に呉の客人のために「磯齒津路」を通したとある。住吉大社から東へ（現在の長居公園通りの位置と推定）長瀬川畔に至っていたと考えられる。八尾と難波を結ぶ道としては長瀬川左岸沿いの「澁川路」が重要であった。両路は今の植松あたりで連絡していた。澁川路はさらに川に沿って南下、竜田道・大津道と合した。
今の奈良街道とはほぼ合致する。



⑦ JR八尾駅南



⑮ 立江地蔵
四国八十八ヶ所第19番札所寺
立江寺の分寺。昭和10年頃勧進された。



⑮ 整備された水路とまち並み



⑮ 森高大明神・友黒大明神



⑮ 古民家のたたずまい



⑮ 簗舎跡（えんぼしゃあと）
比叡山で天台教学を勧め京都で貫名海屋、梁川星巖、頼山陽に学んだ佛蓮が、天保8（1837）頃、松林寺に来院して開いた幕末の八尾を代表する私塾。（左は松林地蔵）

出前授業・ちょっと昔の暮らし

畳のある住まい

～子どもたちに伝えたい

住まいの文化～

奥田千尋

(大阪教育大学大学院 教育学研究科)

畳の部屋にすわると、なぜか「やっぱり落ち着くわねー」と誰からともなく言います。つい寝転んで手足を伸ばしています。夏なら畳のひんやりした感触はとても気持ちがいいですし、冬ならこたつがあればほっこりもぐりこみたくなります。畳は涼しくて暖かく、かたくて柔らかいという(矛盾しているようですが、理屈を述べるより実際の感触でご理解いただけるのでは…)、とても優れた特徴があります。日本の気候や風土に合わせて長い歴史の中でつくられてきた日本独自の、エコで自然素材の床材です。

昨年八尾市内五校の小学校五年生の子どもさんと保護者の方にご協力いただいてアンケート調査をしたところ、三〇〇余りのご家

庭の内、マンション・戸建などを問わず約九割のお家に少なくとも一部屋以上の和室があることが分かりました。生活スタイルが変化し、住まいの様子は大きく変わってきましたが、「畳」は根強く日本の住宅に生き続けているようです。それだけ自由で心地のよい魅力があるということなのでしょう。

このアンケート調査で、昔ながらの生活経験についてもおききしたところ、はたきや座敷ぼうきを使った掃除、季節によってしつらいを替えたりすだれをつるしたり打ち水をして涼を得る暮らし方などの頻度が、保護者の子どもの頃(わずか二〇～三〇年ほど前)と比べて現在では、驚くほど少なくなっていることが分かりました。火鉢や蚊帳などの使用は現在ではほとんどゼロに近く、道具そのものを目にするこすらなくなってきたようです。畳の部屋はあっても畳を上げて虫干しをしたり表替えをしたりといった経験はなく、障子や襖のない住宅もかなりありました。すこし昔までは、季節の変化を上手に住まいにとりいれ、節句の行事などを楽しみながら暮らしてきた生活が大きく変化してきた様子うかがえました。

そこで、昨年度三月の桃の節句の日に、住まいの「優等生」である「畳」の知識や暮らし方を中心に、ちょっと昔の様子を実際の道

具や写真を見てもらいながら紹介をする授業「ちょっと昔の日本の住まいと暮らし」を、八尾市立曙川小学校五年生の皆さんにさせていただきました。

まず、建築士の北村さん、原さんからは建築のプロの立場から、畳のつくりや広さの表し方を教えていただきました。畳は本来、藁やイグサなどの自然素材で作られ、表替えなどで修繕することもでき、最後は肥料などにして自然に返すことができるとてもエコな床材であること、また「〇畳」という広さの表し方は洋室やマンションでも広く使われ、多くの人が感覚的にわかりやすいこと、尺・寸などの単位は建築関係では現在も基準として使われていることなどを聞きました。

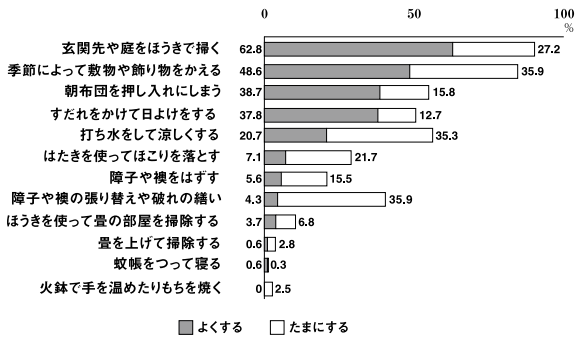
また、旧植田家住宅学芸員の宮元さんからは、畳のほかに、植田家の人びとが実際に使っていたふとんや着物、火鉢や蚊帳などの実物を見たり触れたりさせていただきながら、「畳のある暮らし」「四季のある暮



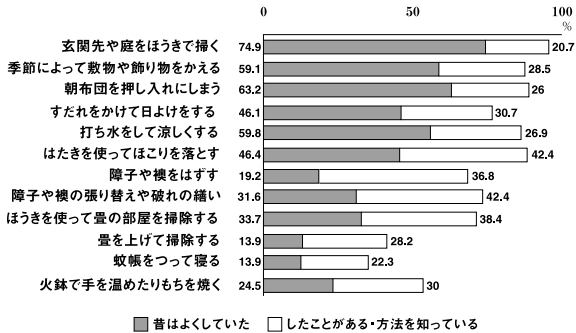
授業中の様子

暮らしに関するアンケート結果(一部抜粋)

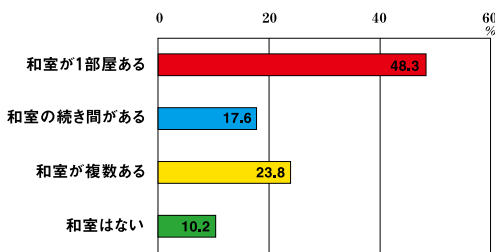
生活経験 (保護者・現在)



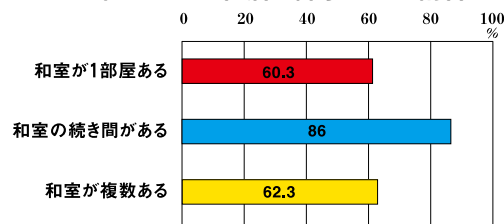
生活経験 (保護者・子どものころ)



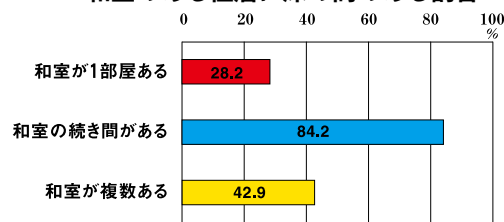
家に和室があるか



和室のある住居に障子がある割合



和室のある住居に床の間のある割合



らし」「一日の生活」のお話をしていただきました。お盆や正月・季節の行事、結婚式や葬式などたくさんのお客さんが集まる時も畳の部屋は自由に座れるので大丈夫！「場」によって畳の敷き方をかえることも知りませんでした。着物をほどこいて洗い張りをしたり綿入れに縫い直したり、畳を上げて干したり、土間で餅つきをしたり…植田家住宅での様子も写真で紹介していただいて、遠い昔のことではない身近さを感じることができました。

授業後の感想の中には、「うちでは畳の部屋にじゅうたんを敷いているから、今度じゅうたんをはずして畳の感触を味わってみた

い。」「四季の過ごし方の工夫とか、昔の人の知恵はすごい」「旧植田家住宅に行ってみていい。」「たたみの部屋がほしいと思いました。」「たたみはおちつけるし、すずしいし、畳は天才だと思いました。」などといった声がたくさん聞かれました。

こうしたちよつと昔の暮らしについて、忘れ去られてしまう前に子どもたちに伝えていきたいと思います。旧植田家住宅は畳の部屋で木や土、紙など自然素材のぬくもりやおだやかな風の流れを感じることのできる、貴重な場所だと思います。





【開墾？】

東側の庭にある畑では、季節ごとにいろいろな野菜が植えられている。田辺大根・天王寺蕪（かぶら）は収穫を終え、種とり用として育てられた株がたくさんの花を咲かせた。それらもゴールデンウィークごろには役目を終え、たくさん種を残してくれるだろう。

四月半ばの現在、これから栽培される予定の勝間南京（こつまなんきん）・黒門白瓜（くろもんしろり）・毛馬胡瓜（けまきゅうり）のため心地よい「フカフカベット作り」に精を出している。「ベッド」とは、もちろん畑の土の事だ。少しずつ振るいにかけて石を取り除き、サラサラになった土に腐葉土を混ぜ込みながら毎日耕し、栄養満点な「住居」を作る。狭い畑とはいえ、手作業なので気が遠くなる。この土作りの作業は、スタッフの間では「開墾」と呼ばれている。

なぜ「開墾」かというと、畑のある場所には粘土層があるうえに、大きな石なども埋まっており、容易に耕すことができないからだ。男子スタッフが力いっぱい鍬を振り上げても、少しづつしか耕せない。真冬でも汗ばむ、まさしく「開墾」なのである。

なにないの伝統野菜 栽培日記

こういった苦勞の末、ようやくベッドは完成。苗ポットで春の訪れと共に発芽しようとしている「子どもたち」を心待ちにしているであろう。

「子どもたちとワイワイ!!」

旧植田家住宅には、「小さなお客さん」がたくさんいる。近所の小学生たちだ。週末には子どもたちの元気な声が聞こえる。そしてちょうど「開墾」の最中、いつものように何人かの子どもたちが訪れた。

目が合った瞬間、子どもたちは揃って「ニヤリ」…。入館するやいなや、予想どおり「土あそび」が始まった。最初は四人だった子どもが、気がつけば一五人ほどになっていた。土でトンネルを作る子、スコップを持つ子、顔の倍以上ある大きな振るいを持って、必死で土を振るう子。普段はなかなか土いじりなどする機会がない都会の子どもたち。ドロだらけになりながら満点の笑顔で、うれしそうに声をあげた。まだ少し寒さが残る、微笑ましい春の一日だった。そして、発芽した野菜たちを「ベッド」に植え替える時には、もちろんまた子どもたちの元気な力を貸してもらおう予定だ。



マンジーくん

安富士 暁



K y u c a は じ め ま し た

昨年の夏休みごろから子ども
の来館者が増え始め、平日でも
かなりの子どもたちがやってく
る。これまでも日常的に「綿
くり・糸つむぎ体験」「コ
ンコンおみくじ」さらに毎
週土曜日ごとに問題のかわ
る「なぞなぞ」「綿を使っ
た犬の人形」作りなどを行
なってきた。常連の子が弟
や妹、新しい友達を誘い、
また輪が広がり、気付けば
たくさん子どもたちが入れ替わり立
ち代りやってくるように!

そこで今年度のはじめから、ひとり
ひとりの子どもにカードを発行することにし
た。来館したら受付に渡し、帰りに持って帰
なった。



ること、施設の中に誰がいて誰が帰ったか
わかるようにした。

K y u c a 旧植田家のカード(旧力)と

旧家をかけたネーミン
グで、植田家カラーの
赤とお稲荷さんのキッ
ネがデザインされてい
る。

カード発行時に学校
名・名前と連絡先を記
入してもらうことで、
緊急時の連絡先を把握
でき、また兄弟・友達
関係もわかるようにな
り、スタッフも安心し

て子どもたちに接することができるようにな



おいしいお茶は心を
豊かにしてくれます..

暮らしのお茶からギフトまで...

0120-19-1184



店主のおすすめ
深蒸し煎茶 清緑 200g
深蒸し煎茶 芳水 100g/200g
季節の味わい 新茶 100g

おいしいお茶は専門店で
龍華茶舗

〒581-0083 八尾市永畑町2丁目1-1 Tel.072-993-5673/Fax.072-923-5828

安中新田会所跡旧植田家住宅

開館一周年によせて

NPO法人HICALI

理事長 木村正二

NPO法人HICALIが八尾市から安中新田会所跡旧植田家住宅の指定管理業務を受け、はや1年が経ちました。通常は学芸員をふくめた三人体制で、土日やイベント開催時には、アルバイト・ボランティアを増員して運営しています。日々、所蔵品の調査・研究、企画、展示、講演、広報、出前授業、清掃などに追われ、施設ひとつを丸ごと管理運営することこの大変さに今更ながら気づかれました。

これらの業務は、スタッフが相互的に連携することで成り立っています。野球で言うなら、一塁手がいないときにはピッチャーがベースカバーに入るように、全員が一丸となって守り、プレーを続けていくようなものです。

そのような日常業務と並行して行なわれている、「なにわの伝統野菜」の栽培、「こどもおみくじ」、子どもたちの安全を考えた「KYUCA（キューカ）カード」の発行などは大変好評で、現場の発想から生まれた、手づくり感覚のヒットだと思っています。

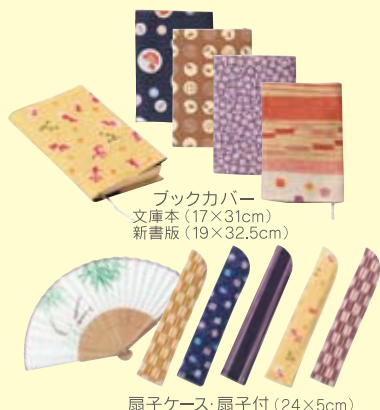
最近、リュック姿に地図を持ってまち歩きをしている人びとをよく見かけます、今まで知ら

れていなかった町なみや、産業廃墟が全国でブームのようです。わたしたちには元もと、旧植田家住宅のある植松周辺の歴史、文化、産業、まち、ひと、すべてが博物館であるというエコミュージアムのコンセプトのもと、地域コミュニティの活性を図りながら、その資源を次代へつなげたいという「思い」がありました。今後もその「思い」のもとに職員、ボランティアが力を合わせて、地域の歴史や文化をよりわかりやすく、深く、そして楽しく伝えたいと考えていますので、皆さまのご理解とご支援をいただきますよう、お願いいたします。

最後になりましたが、リニューアルした『安中新田会所跡旧植田家住宅だより』の印刷を、地域での協働という観点からご支援いただいた、(株) シーズクリエイト様に、深くお礼申し上げます。

私たちは、八尾の歴史・文化を学び、語り、楽しむうちに、これらをより多くの人々に知ってもらい、次代へ伝えてゆく必要があるとの思いから、2006年(平成18)12月NPO法人「HICALI」を設立しました。

「HICALI」の名称は、History(歴史)・Investigation(調査)・Culture(文化)・Art(芸術)・Library(資料)・Institution(団体)、のキーワードに由来し、活動をしています。



ブックカバー
文庫本(17×31cm)
新書版(19×32.5cm)

扇子ケース・扇子付(24×5cm)

「りんごの木」では、障害をもつ人たちが
ひとつひとつ丁寧に縫製品や
手織り品をつくり働いています。

りんごの木

HOT CRAFT SHOP

社会福祉法人 信貴福祉会
りんごの木



〒581-0868
大阪府八尾市西山本町4-15-2
作業所: TEL/FAX (072) 993-4330
ショップ: TEL (072) 997-1440
営業時間: AM10:00~PM6:00
定休日: 日曜日(臨時休業あり)

展示・企画予定表(4月～9月)

展示	企画
4月 4月2日(金)～5月31日(月) 開館1周年記念展示 「植田家を語るものたちⅡ」	4月24日(土) 開館1周年記念講座 「基兵衛と大和川 ～付替えがもたらしたもの～」 (講師:中九兵衛氏)
5月	
6月 6月2日(水)～7月12日(月) 「大和川付替え関連展示」	5月23日(日) ふれあい昔遊び「チャンバラ教室」 6月19日(土) まちなみ再発見「うえまっぶを歩く」 6月27日(日) 講座「名所図絵に見る八尾」 (当施設学芸員)
7月	
8月 7月15日(木)～8月29日(日) 「植田家に残る戦争資料展」(仮)	7月24日(土)～8月29日(日) 施設周辺写生作品展示(ギャラリー)
9月 9月1日(水)～9月26日(日) 「大和川付替え関連展示」	8月5日(木) 郷土食弁当と見学会 8月28日(土) ミニ講座(内容未定) 9月18日(土) 講座「河内木綿の歴史～初級編～」 (当施設学芸員)

休館日(5月～7月) ※○印が休館日

5 May

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

6 June

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

7 July

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

安中新田会所跡旧植田家住宅へは公共の交通機関をご利用ください

※当施設に駐車場はございません

- JR 大和路線八尾駅下車
南出口を出て東へ徒歩3分
- 近鉄大阪線八尾駅から
近鉄バス藤井寺駅前行
JR 八尾駅前バス停下車
南東へ徒歩6分
- 八尾市植松町1丁目1-25
- 072-992-5311



JR八尾店は、旧植田家住宅より西へ約20Mご利用をお待ちしております。

桃 林 堂

- ◎本社・陌草園(山本南) Tel-072-923-0003
- ◎JR八尾店(淡川神社北) Tel-072-992-4649
- ◎西武店(八尾西武・地下1階) Tel-072-997-2650
- ◎東京・上野店(東京芸大前) Tel-03-3828-9826
- ◎東京・青山店(表参道) Tel-03-3400-8703

<http://www.tourindou100.jp>

常盤香
もなか
大坂
土



本社・陌草園(山本南)

この冊子は エコ印刷・糊とじ製本で作られています。

※綴じの部分にホッチキスの金属が含まれていませんので、このまま再生紙として廃棄していただくことができます。

私たち株式会社シーズクリエイトは八尾市弓削町で高速輪転印刷工場を操業しています。
この度同じ八尾の地縁から、NPO法人HICALI(ひかり)様と共に
「旧植田家住宅だより」の冊子印刷のお手伝いをさせていただくことになりました。
この良縁を機に「旧植田家住宅だより」は今回からエコ印刷である糊とじ製本の冊子に代わります。
この冊子をよくご覧いただきますと、綴じ部分にはホッチキスの針がありません。
これは印刷ラインの中で綴じのための糊付処理から製本までを一貫生産するという
技術によって可能になったものです。水性糊を使用しているので環境にやさしく、
リサイクルの時に紙と針金を分ける必要がないので、そのまま古紙回収に出すことができます。
それに“本を読んでいるときに針金で指を突いてしまった”などという痛い経験はもうなくてすみます。
エコ印刷といえば再生紙を使うものと連想される方も多いと思いますが、用紙以外にもエコへの取り組みはあります。
この印刷には、大豆などの植物から抽出された自然に優しい材料が含まれるインクを使用しています。
私たちは時代に先駆けて様々な小さな工夫を重ねながら、資源を大切に、
環境に配慮した技術と印刷物の開発をこれからも続けていきたいと思っています。

私たちが携わっております情報印刷産業は、社会文化の発展にとっては
切り離すことの出来ない存在であると自負しています。今回、「旧植田家住宅だより」を介して
地域の活性化、文化・コミュニティ活動を深めることに、私たちが少しでもお役に立つことが出来たとすれば、
まさに「印刷人冥利」に尽きるものであると、全社一同心から感謝いたしております。
私たちシーズクリエイトはこれまでに培ってきた商業印刷技術に加え、
時代の変革と共に求められる「感性豊かな情報表現」を創造していくことにこの上ない喜びを感じて、
社員一同、これからも切磋琢磨していきたくと思っていますので
今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

株式会社シーズクリエイト 代表取締役 社長 宮城正一

